



がんちゃんのIPE通信

IPE (Intellectual Property Education)

現代GPの「顔」第3回 丸岡裕作先生

ふるさとの山はありがたきかな！

20年も生活した東京から生まれ故郷である岩手県の盛岡市にUターンし、盛岡駅の近くに開業して、もうすぐ20年目となります。ご存知のように、岩手県は、面積が四国とほぼ同じ広さで、人口が約140万人、自然に恵まれたところです。大学のある盛岡市も、岩手山を臨み、北上川が流れる閑静な小都市です。



しかし、岩手県の知的財産の実情を見ると、例えば、特許出願は、全国の年間約40万件あるうち、年間約300件ほどしかなく、比率にすると日本全体の約0.08%となり、県別で下からベスト5には入ろうかという過疎県です。また、これに比例して、岩手県在住の弁理士の数も数人と極めて少なくなっています。そのため、知的財産の発掘は、恐竜の骨を発掘するのに似て、地道です。

それでも、相談会や客先との打ち合わせで、1日300km、400kmも車で駆けずり回ることもあり、結構、「駒鼠」のように動き回っています。近年は、地方の知財活性化という国の施策により、岩手県と日本弁理士会共催の「岩手知的財産権セミナー」をはじめ各種セミナーの開催が盛んになり、また、各地にある商工会を窓口にした「知財駆け込み寺」等の各種相談会も急増しており、普及活動も充実してきました。大学においても、昨年からは、「知財入門」授業が標準科目となり、「知財ワークショップ」という地域視察授業もあり、学生諸君にとっても身近なものになってきています。その結果、講師や相談員としての仕事の依頼が急増し、「駒鼠」として益々動きが活発化して、毎日キューキューしています。

しかし、学生諸君の関心の高さに触れ、将来、企業での開発部門で知財に関り、あるいは、弁理士になるなど、日本を背負ってたつ若い人達の可能性を思うと、とても喜ばしく感じています。

また、「駒鼠」のような生活の中でも、夏はゴルフ、冬はスキー、たまには小岩井牧場で牛や羊と戯れるなど、極上？の田舎生活を満喫しています。まさに、「ふるさとの山に向かいて 言うことなし ふるさとの山は ありがたきかな(啄木)」。

(文：弁理士 丸岡裕作)

現代GP活動予定

1月17日

岩手大学知的財産フォーラム「地域のブランド戦略 大学の知的財産教育との接点を求めて」
(→裏面に広報)

現代GP活動記録

11月12日

知的財産講演会「知的財産概説」
講師：小川宏幸(亜細亜大学法学部 専任講師)

11月12日～14日

・全学共通教育科目「情報基礎」の1コマにて
「著作権と情報」開講
講師：ACCS(社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会)
・全学共通教育科目「市民生活と法」の1コマにて
「特許交渉と紛争の現場」開講
講師：臼井昭彦(元カシオ計算機 知財部長)

岩手大学知的財産教育実行委員会

〒020-8550

岩手県盛岡市上田三丁目18番34号

知財教育推進部事務局

電話 019(621)6749

FAX 019(621)6749

Email: chizai@iwate-u.ac.jp

ホームページもご覧ください。
<http://chizai.iwate-u.ac.jp>

岩手の“大地”と“人”とともに

特許情報活用—特許情報検索インストラクター制度

調査担当者：田中 稔、福永 良浩

まず驚いたのが各部局でまとめられた山口大学特許検索データベースであります。これはIPDL（許電子図書館）が公開しているものとは違い、大学独自でひと工夫された特許検索システムで、検索結果一覧も詳細内容を見る前に概要を一覧できるようになっています（数億円の検索システム費用がかかっているとの事）。また、特許情報インストラクター制度は山口大学での特許情報活用モデルから派生して各研究室からボトムアップで特許サーチャー制度が支えられています。

山口大学の特許情報活用モデルとは①大学院入学前学生の導入教育として（人材育成の観点も兼ねて）→論文と同様に利用。特に特許情報は形式が一定である、②自己の研究の産業技術上の「立ち位置」を確認する、③研究テーマについて過去から現在に至る発想法の確認、気づき、④応用技術、複合系特許分野であれば研究テーマについて、他社特許により研究が隘路に入ることを防止するため、他社特許群との相対位置を知り開発戦略を練るため、他社を含めた特許の空白地帯を探知する、⑤共同研究先を探索する、⑥大学発ベンチャー立ち上げのアイテムとして、⑦純粋な基礎研究でも参考情報が取得できる場合がある、⑧特定研究テーマについて特許情報から実験をトレースする、⑨他社特許を回避する情報として、⑩将来的な技術情報の流れを予測するためとあります。

しかしながら、学内研究者の約6割が特許文献・情報の調査を全く行ったことがなく、その一方で、一部のベテラン研究者は、意識的あるいは無意識であるかを問わず、既に自分のものとした特許情報地図を前提に研究活動を続けています。また、研究室単位で見ても、毎週、新規特許出願の検討会を行っている研究室や、研究に入る段階で特許情報の検索と解釈を学生に課している先進的な研究室もあります。

（担当：講師 大学教育総合センター専任 福永良浩）

地域のブランド戦略 大学の知的財産教育との接点と求めて

2008年1月17日（木）午後1時～5時
（於：ホテルメトロポリタン盛岡）

プログラム

- 13:05-13:05 開会の辞 岩手大学副学長 玉 真之介
- 13:05-13:45 基調講演
情報モラルがつくる新しい地域 (社)コンピューターソフトウェア著作権協会専務理事・事務局長 久保田 裕
- 13:45-14:45 地域の取り組み
- <遠野>トナーゼブランドに込められたもの 遠野市ふるさと定住推進室 菊池 保夫
- <盛岡>ブランド宣言の企み 盛岡市商工観光部ブランド推進室室長 坂田 裕一
- <岩手大学>地域の取り組みと大学の知財教育 岩手大学教授 山崎 憲治
- ~~~ (休憩 30分) 特産ブランド品の試飲・試食をお楽しみください~~~
- 15:15-16:55 パネルディスカッション
コーディネーター 丸岡裕作(弁理士・丸岡特許事務所)
パネラー 久保田裕、坂田裕一、船越巧子(弁理士・金谷特許事務所)、
宮本ともみ(岩手大学准教授)、知財ワークショップ履修学生
- 16:55-17:00 閉会の辞 岩手大学副学長 玉 真之介

【お問い合わせ・申込】知財教育実行委員会事務局

TEL(019)621-6091(大内)、FAX(019)621-6065、E-mail: chizai@iwate-u.ac.jp